

『官話指南』における北京語文法の研究 — “詞法” を中心に —

孫 雲偉

The Research On Beijing Dialect Grammar of *Kuan Hua Chih Nan*
: with the accidence as a center issue

Yunwei SUN

内容提要：

『官話指南』作為口語對話形式的北京話教科書，迄今為止有版本、詞彙、語法等方面研究。本文以周一民的《北京口語語法・詞法卷》為參考，把著作文章中提到的具有北京話詞法特色的條目整理出來，與『官話指南』進行對比，從而發現『官話指南』作為老派的北京話教科書，具有的獨特詞法特性以及個別詞法項目與周氏《北京口語語法・詞法卷》用字不同的現象。研究顯示，『官話指南』的一小部分詞法項目現在已經成為普通話有機成分。

キーワード：北京語文法、“詞法”、周一民

目次

1. はじめに
2. 周一民氏《詞法卷》と波多野太郎氏の評価
3. 《詞法卷》における“詞法”項目

4. 『官話指南』における特殊な“詞法”項目
5. 『官話指南』における“詞法”項目の用字相違
6. おわりに

1. はじめに

『官話指南』は、北京日本公使館の通弁見習である呉啓太・鄭永邦の共編により、楊龍太郎を出版人として1881年上海で出版され、日本人が初めて編纂した北京語教科書である。日中間において、『官話指南』の版本、著者、語彙、文法、音声など多方面から研究成果が上げられている。文法の面では太田辰夫(1969)、孫錫信(1997)、呉麗君(2008)、馬翼飛(2012)などの研究があり、すでに多くの成果が発表されている。しかし総合的な研究は未だ発表されていない。

中国語の文法は“句法”と“詞法”¹⁾の二類に分類できる。《北京志・民俗・方言卷・方言志》(2015)によると、“北京话语法的研究与语音研究相比显得十分单薄，甚至不及词汇研究。”(344頁)と指摘している。その理由は、“可能是因为人们以为北京话语法和普通话语法没有什么区别而对此未给予足够的重视。”及び“这跟长期以来语法学界多注重书面语法的研究而忽视口语语法的做法也有关系。”(344頁)と記されている。

本稿は周一民《北京口语语法・词法卷》²⁾(1998)を参考にしながら、“詞法”の面から『官話指南』と《词法卷》項目の相関性を明らかにしたい。

2. 周一民氏《词法卷》と波多野太郎氏の評価

周一民《词法卷》(1998)は“本书从研究对象上廓清了范围，彻底排除了不属于口语的书面语因素，以纯净的，包括北京土话在内的北京方言语法作为

¹⁾『現代中国語総説』(2004)では「文法〔“語法”〕は語構成論〔“詞法”〕と統語論〔“句法”〕の二分野に分けることができる」と指摘している。本文は「語構成論」(244頁)に基づき、中国語の〔“詞法”〕を使用するほうがより適切だと考えている。

²⁾以下で“词法卷”と称する。

研究対象。”（1頁）と指摘している。また、本書はここ10年以内の国内、国外北京語の研究成果を参考する上で、“語音”、“語義”、“語用”の面から、北京語特徴を持っている語法現象を解説している。その上で、他の語法書に収録されていない解釈、詳細さに欠けた文法用語をさらに分析している。

波多野太郎氏「《北京口語語法・詞法卷》讀後」（1999）では、冒頭に「周一民著す《北京口語語法》は20世紀の90年代における北京城及びその近郊の家庭で使用される日常語の語法書。」（193頁）と指摘している。

そして、波多野太郎氏は周氏の《詞法卷》に収録した北京語の特徴を持っている“詞法”と北京語の発音について、評価している。

例えば、氏は「名詞のうち今まで論及されることがない“這前兒”“那前兒”が挙げられてある。」「動詞の接続を表すに、動詞の前に置く“接茬兒”の用例として、“他走了，咱們接茬兒喝。”が挙げている。」「“達”という後綴に、一種減勢の作用があることも指摘している。“哧”に、はっきりした減勢の作用があることを指摘したのも貴重。」などの例を挙げた。発音は「構詞の後綴の“們兒”は都て軽声。」「北京語では“哪”は一般に都て nǎi。」「普通語の“比較”は、北京語では逆にして jiaobi。」などの例を挙げている。（193頁～195頁）

その上で、波多野太郎氏は《曲江池》《元曲釋詞》《冤家債主》などを参考して、後綴“撒”、“巴巴”を説明している。氏は、最後に「どこの国も同じだが、同じ北京語といっても、老派と新派との使う言葉に相違が著しく見出される。本書ももとよりこれを重視している。」（195頁）という結論を導き出している。

波多野太郎氏は北京語が老派と新派に分類している結論は『官話指南』にも適用できると思われる。本稿はこの結論を踏まえ、北京語の“詞法”をさらに分析する。

3. 《詞法卷》における“詞法”項目

本稿は周一民《詞法卷》を参考にし、北京語独自の特徴を有している項目をピックアップして、《詞法卷》から取り出した北京語の特徴を持っている“詞法”について作表した。

表1 《詞法卷》と『官話指南』の“詞法”項目の一覧表

品詞	“詞法”	指南	品詞	“詞法”	指南
名詞	前綴：老、小、初、阿	○ ³⁾	名詞	中綴：麼	○
名詞	中綴：巴	×	名詞	後綴：兒、頭	○
名詞	後綴：巴	×			
動詞	趨向動詞：起去、起下來	○	動詞	去 vp 去、來 vp 來	○
動詞	助動詞：得	○	動詞	重疊式：ABAB	○
動詞	後綴：達	○			
形容詞	重疊式：AA 兒	○	形容詞	後綴：巴、咕、乎	×
量詞	集合量詞：對兒、身兒	×	量詞	部分量詞：箍節兒、箍揪兒	×
量詞	不定量詞：丟丟兒	×			
代詞	人称代詞：咱們、我們	△	代詞	人称代詞：您、丫	×
代詞	時間代詞：這程子、那程子	○	代詞	疑問代詞：多暫、多前兒	△
代詞	反身代詞：自個兒、個個兒	△			
副詞	程度副詞：忒、倍兒	×	副詞	頻率副詞：從新	○
副詞	範圍副詞：攏共	×	副詞	頻率副詞：隔三差五兒	×
副詞	時間副詞：立馬兒、壓根兒	×	副詞	情狀副詞：愣、瞎	○
副詞	量度副詞：玄玄兒	×	副詞	情狀副詞：瞅不冷子、好生、麻利兒、敞開兒	×

³⁾『官話指南』に現れている“詞法”は○で表し、現れていない場合は×で表し、用字の相違は△で表す。

副詞	語氣副詞：敢情	○	副詞	否定副詞：甬	×
副詞	語氣副詞：許是、橫是、興許	×	副詞	處所副詞：滿市街、滿處兒	×
副詞	否定副詞：別	○			
介詞	處所介詞：挨、跟	○	介詞	起點介詞：打、解	○
介詞	處置介詞：拿、管	○	介詞	起點介詞：且	×
介詞	對象介詞：問、管	×	介詞	目的原因介詞：沖、奔	×
介詞	目標介詞：奔	○	介詞	憑藉介詞：就	×
介詞	憑藉介詞：靠	○	介詞	時間介詞：趕、等	○
介詞	時間介詞：頂	×	介詞	工具介詞：使	×
介詞	範圍介詞：論	○	介詞	依從限制介詞：沿、捋	×
介詞	施事介詞：讓、叫、給	○			
助詞	結構助詞：的、地、得	△	助詞	約略助詞：郎噹兒、伍的	×
連詞	茲、茲要是	×			
語氣詞	哪、啊、來着	○			
嘆詞	啊、哼	○			

全部で53項目の中に『官話指南』にある“詞法”項目は24個あり、ないのは25項目あり、用字相違なのは4項目ある。以上のことからみると、『官話指南』における特殊な北京語の“詞法”は半分ぐらいを占め、北京語教科書としての根拠がさらに証明される。

また、上記の作表から太田辰夫（1969）が指摘した北京語の7項目の特徴は周氏の《詞法卷》では「代名詞一人称複数の包括形と除外形を“咱們”“我們”」、「禁止の副詞“別”」、「助詞“來着”」及び「介詞“給”を有する」の四項目が収録されている。残りの「助詞“哩”を用いず“呢”を用いる。」「程度副詞“很”を状語に用いる。」「“～多了”を形容詞の後におき“ずっと、はるかに”の意を表す。」の三項目は収録していない。周氏の《詞法卷》では助詞“呢”すでに“語氣詞”として使っていて、程度副詞“很”は“普通話”として省略され、“～多了”は“句法”項目でもあるので、収

録していないと考えられる。

4. 『官話指南』における特徴な“詞法”項目

この節は“您納”、“被”、“所”などの『官話指南』に現れている特徴の“詞法”について、分析する。

(1) 您納

周氏の《詞法卷》の代詞項目では人称代詞については詳細に紹介しているが、“您納”について述べていない。“您納”は主語(S)或は賓語(O)として最初に現れた北京語教科書が『官話指南』⁴⁾であり、同書は14例⁵⁾ある。その後、時代の変遷につれて、清末民初から“您納”を“您”と交替し、次第に“您納”は消滅した。

- ①您納貴姓。賤姓吳。(1)
- ②您納可以一塊兒搭伴兒去，與我也很方便了。(1)
- ③您納說話聲音太小，人好些個聽不清楚。(1)
- ④好啊，富老爺倒好。好啊，您納買賣好啊。(2-14)
- ⑤請問您納是老爺先瞧，是太太先瞧。(2-34)

(2) 被

周氏の《詞法卷》からみると、北京語“詞法”の特徴を持っている介詞は少なくないが、“在”、“從”、“為”、“替”、“由”、“往”等の一部の介詞はすでに“普通話”に転化し、さらに“北京口語里沒有介詞‘被’，表示施事或動作行為主体主要用‘让’和‘叫’偶尔也用‘給’。”(222頁)と指摘している。それに対して、『官話指南』において“施事”を表す介詞“讓”、“叫”、“給”、“被”はすべて使用している。同書で“施事介詞”として使用

⁴⁾ 楊杏紅 2014、131頁。

⁵⁾ 例文は紙面の関係で一部のみを紹介する。

している“被”は10例ある。周氏は‘让’、‘叫’、‘给’都可以用‘被’替换，不过替换后的句子北京话不说，属于普通话。”（222頁）のことからみると、『官話指南』の一部用法は今日“普通話”として使用していると考えられる。

⑥老弟，我聽見說你們那位令親王子泉被祭了，是真的麼。（2-22）

⑦縣城裏頭有一個錢鋪被刮，搶了有幾百兩銀子賊去…。（2-22）

⑧趕車的起車上，把烟土卸下來了，被巡役看見了。（4-13）

（3）所

副詞の“所”は周氏の《詞法卷》には収録されていないが、太田辰夫（1986）は「“所”は「すっかり」「安全に」の意」（373頁）と指摘し、また齊如山（1991）は“所，簡直也，成总也。如云‘所不是那们回事’，‘这们好好东西所吃不下客（去）’。”（172頁）と述べている。そして、陳明娥（2014）によると、副詞の“所”は清末以前の中国本土の北京語教科書にはあまり使用されていない用語であり、初めて使われている北京語教科書は《語言自邇集》⁶⁾であると指摘している。『官話指南』の全書には、7例ある。

⑨趕開了印之後，就所沒甚麼閒工夫了。（2-4）

⑩現在的莊稼所都長起來了罷。（2-11）

⑪這個工夫兒天忽然下起雪來了，他就頂着雪各處找了會子所沒有。（2-15）

⑫江西那幾年事情倒很好，就起到了蘇州之後，事情就所不順了。（2-24）

⑬客人是所不答應，要定了箱子了。（2-21）

⑭敢情是這幾年買賣發了財了，東家所不上舖子了，竟在家裏納福，（2-23）

⑮先吃的還不多，後來是一天比一天吃的多，到了去年他臉上所帶了烟氣了。
（2-25）

⁶⁾ 楊杏紅2014、113頁。

(4) 兒化詞

周氏の《詞法卷》の名詞項目の中では“‘兒是北京話裏最活躍的名詞後綴。帶‘兒’後綴的詞大多數是名詞。(10頁)”と指摘している。丁鋒(2010)は“大部分的兒化詞跟同形非兒化詞相比,在意思(理性意義)上並沒有什麼變化,隨著‘兒’的附著,增加的祇是一種北京口語味兒,所謂‘京味兒’。”また“北京人說話習慣在名詞後面附上‘兒’,幾乎是無往不適,可以說北京話兒化的口語體色彩中名詞指向是其最重要特徵之一。”(271頁)と指摘している。本稿では『官話指南』の“兒化詞”を分類し、品詞の分布によって、以下のように整理した。

1) 名詞

今兒、後兒、昨兒、明兒、茶盤兒、茶船兒、錫鑲罐兒、胰子盒兒、茶机兒、痰盒兒、車沿兒、官帽兒、烟盤兒、雞子兒、鹽盒兒、村莊兒、笑話兒、米粒兒、花兒、烟捲兒、燈罩兒、燈苗兒、皮箱兒、繩子扣兒、尾兒、車箱兒、宅門兒、傍帳兒、工夫兒、各樣兒、人家兒、地名兒、月頭兒、草稿兒、字眼兒、榜樣兒、瓜子兒、門口兒、菜名兒、官座兒、外邊兒、七星罐兒、牙籤兒、藍白線兒、坎肩兒、汗褸兒、褲腳兒、西邊兒、倒座兒、東嘎啦兒、夥伴兒、毛稍兒、杏兒、脆棗兒、白墻兒、市口兒、新手兒、信兒、山兒、傍邊兒、屁股蛋兒、榻板兒、銀盤兒、錢數兒、手縫兒、歲數兒、外面兒、每樣兒、閒空兒、伴兒、腔調兒、邊兒、借字兒、馬尾兒、地方兒、住家兒、煤球兒、燈虎兒、小孩兒、台階兒、勁兒、北邊兒、對面兒、水聲兒、銀數兒、麻繩兒、賞封兒、紅封兒、筋筋兒、棍兒、小吃兒、眼裏見兒、聲兒、底半截兒、四面兒、價兒、道兒、板凳兒、性兒、那家兒、儘溜頭兒、蓋兒、零兒、前兒個、昨兒個、明兒個、今兒個、大前兒個、一會兒、自各兒、跑堂兒的、慢點兒、便宜點兒、照應點兒、有點兒、體面些兒、涼快些兒、背陰兒、照樣兒(定燒一對)、得空兒、就手兒、拐彎兒、轉過灣兒、搭伴兒、耍馬前刀兒、向陽兒、澆花兒、復元兒。

『官話指南』全書は168個⁷⁾“兒化詞”があり、名詞の“兒化詞”は128

例ある。その中では多くの“兒化詞”まだ北京語の口語文に使用しているが、“官座兒（劇院專為軍閥官僚準備的坐席）”、“倒座兒（一院之内，與正房相對的房屋，通常坐南朝北）”、“傍帳兒（車篷兩側的遮陽簾）”、“跑堂兒的（飯館兒，酒店裏為客人吃住服務的人）”等のような当時ある物や人を表している言葉はすでに時代の変遷により、現在は使用されなくなっている。

2) 動詞

坐一坐兒、坐坐兒、歇歇兒、頑兒、耽悞兒、等一等兒、挨一挨兒。

3) 形容詞

零碎兒、耐心煩兒、準兒、有趣兒、多兒、活活兒的（餓死）、細細兒得（數了一數）、好好兒的（拿熨斗熨一熨）、悄悄兒的（進來）、爛爛兒的（燉）。

4) 副詞

一層一層兒的（都墊上紙）。

上述の例から見ると、“活活兒的”、“一層一層兒的”、“細細兒得”等のように、“兒的（得）”用法について丁鋒（2010）は“‘兒’貌似因‘的’而存在的語言成分，但它不是‘的’的附屬，而是附著在前面的詞或詞組後，共同起修飾作用，表達口語體功能的。……可見，‘兒’不是一種固定組合。”（274頁）と指摘している。丁鋒（2010）の結論によると、“前兒個”、“昨兒個”、“明兒個”、“今兒個”、“大前兒個”のように“兒個”は固定の組み合わせではなく、単に前項の語彙を修飾し、各々が個別の存在であると言えよう。

5) 代詞

這麼樣兒、這兒、那兒、這樣兒的、這邊兒、那邊兒、這陣兒、那塊兒、那個兒。

⁷⁾『官話指南』の本文には全部で397個“兒化詞”があるが、本稿において、重複しているのを取り上げていない。

6) 数量詞

一點兒、一季兒、一所兒、幾分兒、幾樣兒、十子兒、(打了)兩下兒、兩樣兒、一送兒、四季兒、兩邊兒、一塊兒、一半兒。

また“兒化韻在漢語書面語言裏，是用漢字‘兒’紀錄下來的”，“但並非所有的人都把這種‘兒’字寫出來。”(73頁)『官話指南』にもこのような現象が存在している。

⑩你等一等兒，我就換衣服同你走。(2-40) / 你等一等我們，把那個丟銀票的那個人找來…。(2-6)

⑪你看四季的時候那一季兒好。(1) / 四季兒各有好處，你喜歡那季兒。(1)

⑫我很想他，有閒空兒請他來坐坐。(1) / 請大人再畧坐坐兒，多盤桓一會兒。(4-4)

“兒化詞”は北京語の重要な言語現象で、北京語教科書としての『官話指南』にも大量の“兒化詞”を使われていることから、同書の口語文としての根柢がさらに明示していると思われる。

(5) 竟

“竟”は《詞法卷》には収録されていないが、『官話指南』では3例あり、例文を合わせて分析すると、ここの“竟”は“只，只是”の意味を表しているものと推測できる。しかし、この用法は未だ使用例がなく、《漢語大字典》(1986)、《現代漢語詞典》(2005)、《北京話詞語》(2013)等にも“只，只是”を表している“竟”についての解釈は存在しない。今後他の北京語資料を参考し、さらに証明を加えたい。

⑬趕那個人死了之後，他就變了心了。他竟把東西，給那個人寄回家去了，可就把那一千多兩銀子昧起來了。(2-16)

⑭他最愛耍錢，他整天家竟再寶局上。(2-17)

⑮那麼就應當竟叫這兩家沾過光的賠銀子。(4-9)

(6) 瞎

“瞎”は《词法卷》に収録されていないが、『官話指南』の本文には“瞎走”という語彙が採用されており、“無目的，無計劃”⁸⁾の意味を表している。しかし、例②のような“瞎”は《漢語大字典》(1986)、《現代漢語詞典》(2005)、《北京話詞語》(2013)等には一切説明がない。この“瞎”は同書に1例のみ存在している。例文を分析すると、ここの“瞎”は“惋惜，可憐”の意味を表すと考えられる。しかし、この解釈にはまだ根拠がなく、今後さらに用例を探して分析する必要がある。また、筆者は“胡同”“四合院”に数十年以上住んでいる十数人の北京出身者を対象として調査を実施したが、当時の口語文では上述の用例“瞎”の用法は確認できなかった。文語文には存在するか否か不明である。

②瞎，這孩子實在沒出息，整天家遊手好閒不做點兒正經事。（1）

5. 『官話指南』における“詞法”項目の用字相違

この節では《词法卷》を『官話指南』と比較して、用字の違い“詞法”のみを取り出し、分析する。

(1) “咱們”と“我們”

太田辰夫が提出している「包括形を表す“僂們”」と「除外形を表す“我們”」⁹⁾の用法については周氏の《词法卷》にも収録されているが、『官話指南』には“咱們”ではなくて、“僂們”と使用している。また、『官話指南』においては「包括形を表す“僂們”」は全書で64例、「除外形を表す“我們”」は109例も使用されている。

1) 包括形を表す“僂們”

⁸⁾ 孫雲偉 2016、159頁。

⁹⁾ 一人称代詞の包括形 (inclu-sive) と除外形 (exclusive) を「咱們」「我們」で区別する。「俺」「咱」などは用いない。包括形は話し相手を包括し、除外形は話し相手を除外することである。

②③所有僭們逛過的這些個名勝地方，就是我們今兒晌午到的那座山上景致好的很。(1)

②④這是甚麼話呢，僭們這樣兒的交情您用這點兒銀子，還提甚麼利錢哪。(2-10)

②⑤僭們今兒個這麼空喝酒也無味，莫若僭們都斟滿了滑幾拳罷。(2-39)

2) 除外形を表す“我們”

②⑥我們有個親戚前幾天打圍去了，不但沒打着甚麼，倒把他的一匹馬丟了。(2-15)

②⑦我們老爺下天津去了。(2-18)

②⑧幸虧我們舍弟身上有一個銀兜子裏頭裝着有十幾兩金子。(2-28)

本稿で取り挙げた用例が少ないが、『官話指南』では、除外形を表す“我們”の用例から見ると、“我們”の後ろに“老爺”、“先伯”、“大人”、“領事”、“舍親”、“局子”などの第三者の名前、人称、場所などが付く場合、必ず除外形で表すことが容易に推測可能である。

(2) 自各兒

周一民《詞法卷》では、“自个儿”、“自己”、“自己个儿”、“个个儿”を“反身代詞”¹⁰⁾として挙げられている。北京語において、よく使われているのは“自个儿”で、“个儿”は「gèr」と発音する。『官話指南』の中では“自个儿”、“自己个儿”、“个个儿”は使用されていないが、“自己”は29例もある。“自己”は今の“普通話”として使用している。また“自个儿”の替わりに、“自各兒”は2例ある。“自各兒”は“自个儿”と同じ意味で、単に字が異なっているにすぎないと思われる。

②⑨我自各兒沏上罷。(3-2)

③⑩給你鑰匙，你自各兒開罷。(3-10)

¹⁰⁾ 周氏の《詞法卷》から出現したもので、“反身代詞在句子里指前面已出現的表人代詞。它可以复指三身代词中的任何一个，可以表示单数，也可以表示复数”(160頁)と解釈している。

また、『官話指南』では“反身代詞”として使われているのは“各人”があり、“自己、本人”の意味を表す。

③①這個看園子的，是僑們給他找啊，還是他各人找呢。（2-14）

③②你們瞧那個騙子手，在點心舖裏吃點心哪。你們各人進去找他去罷。（2-36）

(3) “的”“得”“地”

“的”は北京語として“V不C的V”格式中，表示某种事物数量太多，令人难以对付。（例：那儿西瓜多极了，吃不了的吃。）、“用在“X的X，Y的Y”格式中，表示分別做某事或分別出現某種情況。（例：我们这批人退的退了，走的走了，沒剩下几个儿。）”（243頁）などの6種類の用法を挙げている。筆者の調査によると、『官話指南』の本文には上述のような用法がなく、現れているのはほぼ現代漢語と同様である。そして“得（de 助詞）”、“得（dé 動詞）”、“得（děi 動詞）”三つの用法については全て使用されている。

また、『官話指南』には助詞“地（de）”の用法がなく、“的”“得”のみが使われている。

③③我聽見說您這西院裡那處房要出租是真得麼。（的）

③④去年他家裏辦白事，再三得求我給約兩位朋友。（地）（2-27）

③⑤這麼着我就叫他們那幾個夥計，把棉花包起棧房裏又都盤到院子來，細細兒得數了一數。（地）（2-38）

③⑥你別不認帳，昨兒個你拿我的茶葉，我悄悄兒的進來瞧見了。（地）（3-15）

③⑦叫他好好兒的拿熨斗熨一熨，那纔能周正了。（地）（4-5）

以上の用例を見ると、『官話指南』の助詞“的（de）”、“得（de）”、“地（de）”の用法は混乱している。その理由として当時、助詞“地（de）”はまだ規範使用されていないし、そして“的（de）”、“得（de）”、“地（de）”は同声であるので、“的（de）”、“得（de）”を使って、“地（de）”を取り替えている為と考えられる。

(4) 多暫

疑問代詞“多暫”は“什麼時候”の意味を表し、『官話指南』で“多僭”、“多嚙”、“多咱”を書いているが“多僭”の方は1例のみである。“多咱”は9例ある。“多僭”、“多嚙”、“多咱”は全て同じ意味で、違う字で表していることから、当時『官話指南』の用字はまだ一部分が混乱していると考えられる。

③他老子娘也不管他麼，這麼由着他的性兒鬧多僭是個了手啊。(1)

③9您打算多嚙那房子去。(2-1)

④0老兄大概得多嚙上新任去呀。(2-5)

④1老弟你是多咱回來的。(2-24)

6. おわりに

本稿は周一民《詞法卷》を参考にして、北京語の特徴を持っている“詞法”項目を作表した上に、『官話指南』と比較した。『官話指南』は100年前の老派の北京語教科書として当時の北京語文法を研究する際、極めて重要な文献材料であることがさらに認識できた。そして、『官話指南』において“被”、“自己”等の使用状況から、当時の北京語“詞法”はすでに一部文を“普通話”として使用しているのが見られる。それから、“的”“得”“地”及び“多暫”などの用字から見ると、当時の漢字使用は規範化されていない為、多少なりとも混乱している状況が存在している。また、『官話指南』は北京語教科書としての更なる根拠及び教材の独自性についてより深く研究を進めていきたいので、今後、“句法”の面から詳細に考察したい。

参考文献

1. 張洵如 (1957)《中國語文叢書 北京話輕聲詞彙》中華書局
2. 中国語学研究会 (1969)『中国語学新辞典』(太田辰夫「近代漢語」)
3. 宋孝才・馬欣華 (1982)《北京話詞語例釋》鈴木出版
4. 徐中舒主編 (1986)《漢語大字典》四川辭書出版社、湖北辭書出版社

5. 太田辰夫（1988）『中国語史通考』 白帝社
6. 齊如山（1991）《北京土話》北京燕山出版社
7. 魯允中（1995）《普通語的輕声和兒化》商務印書館
8. 陳剛 宋孝才 張秀珍（1997）《現代北京口語詞典》語文出版社
9. 孫錫信（1997）「《官話指南》語法拾零」《漢語歷史語法叢稿》漢語大詞典出版社
10. 周一民（1998）《北京口語語法·詞法卷》語文出版社
11. 波多野太郎（1999）「『北京口語語法·詞法卷』讀後」『開篇』第 19 号好文出版
12. 周一民（2002）《現代北京語研究》北京師範大學
13. 北京大學中國語言文學系現代漢語教研室編（2004）『現代中國語總說』三省堂
14. 中國社會科學院語言研究所詞典編輯室（2005）《現代漢語詞典》（第 5 版）商務印書館
15. 張美蘭（2007）〈明治期間日本漢語教科書中的北京話口語詞〉《南京師範大學文學院學報》第 2 期
16. 吳麗君（2008）〈日編北京口語教材《官話指南》的言語特點分析〉《人文叢刊》第三輯
17. 徐麗 石汝杰（2010）「《官話指南》的版本和語言」『開篇』第 29 号
18. 丁鋒（2010）《〈官話萃珍〉所見清末北京話兒化現象》、《如斯齋漢語史叢稿》貴州大學出版社
19. 李無未·楊杏紅（2011）〈清末民初北京官話語氣詞例釋——以日本明治時期北京官話課本為依據〉《漢語學習》第 1 期
20. 馬翼飛（2012）「《官話指南》把字句研究」《金田（勵志）》第 11 号
21. 陳明娥 李無未（2012）〈清末民初北京話口語詞匯及其漢語史價值——以日本明治時期北京官話課本為例〉《廈門大學學報》第 2 期
22. 傅民 高艾軍（2013）《北京話詞語》中華書局
23. 楊杏紅（2014）《東亞漢語史書系 日本明治時期北京官話課本語法研究》廈門大學出版社
24. 徐麗（2014）《日本明治時期漢語教科書研究——以〈官話指南〉、〈談論新篇〉、〈官話急就篇〉為中心》北京外國語大學博士論文
25. 陳明娥（2014）《東亞漢語史書系 日本明治時期北京官話課本詞彙研究》廈門大學

孫 雲偉 「『官話指南』における北京語文法の研究」

出版社

26. 山田忠司（2015）〈北京話的特點－圍繞太田博士提出的七個特點－〉《現代漢語的歷史研究》浙江大學出版社
27. 北京市地方志編纂委員會（2015）《北京志・民俗・方言卷・方言志》北京出版社
28. 孫雲偉（2016）「『官話指南』における北京語語彙」《中国言語文化学研究》第5号大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻